

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 23 年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	倉島洋介	会員番号	0026431
申請者の所属・職名	東京大学医科学研究所・炎症免疫学分野・博士研究員		
出席会議名	98 th Annual meeting The American Association of Immunologists		
発表論文タイトル	Amplification of purinergic receptor-mediated mast cell activation via autocrine pathway		

実施結果:

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award を賜り誠にありがとうございました。

5月13日から17日まで実施されたアメリカ免疫学会(AAI)において、私はこれまでに東大医科学研究所・炎症免疫学分野の清野宏教授ならびに國澤純講師の御指導のもと従事してきた、炎症性腸疾患、特にクローン病のモデルマウスを用いたマスト細胞の炎症増悪化への関与についての報告を行いました。

腸管粘膜内に存在するマスト細胞の機能については不明な点が多く残されていますが、本研究発表では新たにマスト細胞の核酸受容体を介した炎症反応の増悪化機構について示しました。本研究発表を通じて、実験データや今後の研究指針などに関連した多くの貴重なご助言を頂き、今後一層の精進をしようと決意しました。

本会議中の他報告の中には、T細胞のサブセット間において機能的な違いに留まらず、Glucolysisの依存性も異なっているなど、免疫細胞の代謝経路についての分子細胞レベルでの解析といった興味深いものがありました。また、AAI-BD Biosciences Investigator Award の受賞者である岩崎先生の御発表を拝聴し、これまでの研究成果だけではなく、日本人研究者の世界的な活躍にも感銘を受けました。

そして会議後には、共同研究先である La Jolla 研究所(サンディエゴ)の Hugh Rosen 博士の研究室を訪問する機会も得ました。Rosen 博士らのグループは、脂質メディエーターであるスフィンゴシン1リン酸の研究の第一人者であり、今回の訪問では、我々が実施しているスフィンゴシン1リン酸受容体関連の研究のディスカッションならびに、Rosen 博士の研究室で構築されたトランスジェニックマウスの解析およびサンプルの回収を行うことができました。

今回の受賞を励みとし、本学会中に得られたことを活かして更なる飛躍を目指して研究活動に尽力したいと思っております。